



第104号

本紙は、ピースボート災害ボランティアセンターが、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙です。毎月10日、25日発行。

被災地から被災地へ

茨城県常総市豪雨災害緊急支援②

常総市に入り、一か月が過ぎた。つい先日まで、道路や公園に山と積まれていた家財や瓦礫は、行政と住民とボランティアの共同作業であらかた集積所に運ばれていった。市内外に約30か所あった避難所は、現在市内6か所に統合され、避難者数は約300人にまで減った。10月16日からようやく、これまでのようにやき、これまでのようにおにぎりやパンの配食からお弁当の提供に切り替わり、近中にすべての避難所にリースの布団が導入される予定だ。一方で、盗難の不安などの理由で、避難所から浸水した自宅に無理矢理帰られる方も増えている。床と壁を剥ぎ、水を含んだ断熱材を除去し、どんなに広がるカビと消毒薬

もお風呂もない家の中で、「寒い寒い」とダウンジャケットに身を包み、夜は座布団を並べて寝るのだという在宅避難の方々は、一人や二人ではない。連休を過ぎてボランティアの数が激減し、床下の泥かきや側溝清掃などの作業が追いついていない中で、堆積した土砂が粉じんとなって舞い、それによって体調を崩す方も増えてきた。被害の規模は東日本大震災とは比べ物にならないが、生活レベルという意味ではまだまだ課題が多い。そんな中、私たちが

現在重点を置いているのが「炊き出しの調整」、すなわち炊き出しが出来る団体の申し出(シーズ)と避難所や在宅避難者が多い地域とをマッチングする活動である。地域の区長さんやキーマンと繋がり、被害状況や住民の現状を知り、炊き出しが出来るスペースを開拓する。一方で、支援側が提供できるメニューや食数、持っている資機材、調理や配食に必要な設備を丁寧にヒアリングし、条件に合う避難所や地域を選定する。区長さんの負担にも配慮しながら、事前告知の協力をお願いすることも重要だ。炊き出しにはできるだけ同行し、地域のニーズや課題をヒアリングし、毎晩行われているNPOの連絡会議で共有する。これまでに50件以上の炊き出しを調整してきた。

先日、女川町の方々が炊き出しに来てくれた。仮設住宅に暮らす女性たちが何日もかけて、豆腐ハンバーグや切干大根などのお惣菜をせっせと作り、小分けにして冷凍して、現地で湯煎をするという斬新な手法だった。「高齢で現地に来られない方々にも調理に参加してもらいたい、その人たちの分まで想いを届けて来た」と代表の八木純子さん。自分たちが避難している頃食べたかったものを思い出し、メニューを考えたのだという。実際、カレーや豚汁などの炊き出しが多い中で、普段家庭で食べるようなお惣菜の数々は大好評だった。しかもそれが仮設暮らしの方々が手作りしたものだとを知ると、涙を浮かべる住民の方の姿もあった。

想像力をフル活用しながら、常に相手の立場や気持ちに配慮して支援をするということ。実は容易ではない。だからこそ、災害を経験した方々にこそ出来る支援や関わり方があるのだと思う。

想いを馳せてくれるだけでも、お茶っこの話題にしてくれるだけでもいい。忘れないで、いて欲しい。

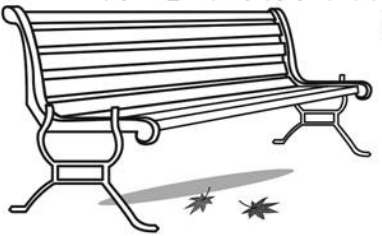
(ピースボート あき)

11月のイベント情報

■かなんまつり

河南地区の新鮮な野菜や地場産品が勢揃い！趣味の作品展示や民俗芸能などのイベントも盛りだくさん。秋色の旭山を散策しながら、河南の秋を満喫してみませんか？

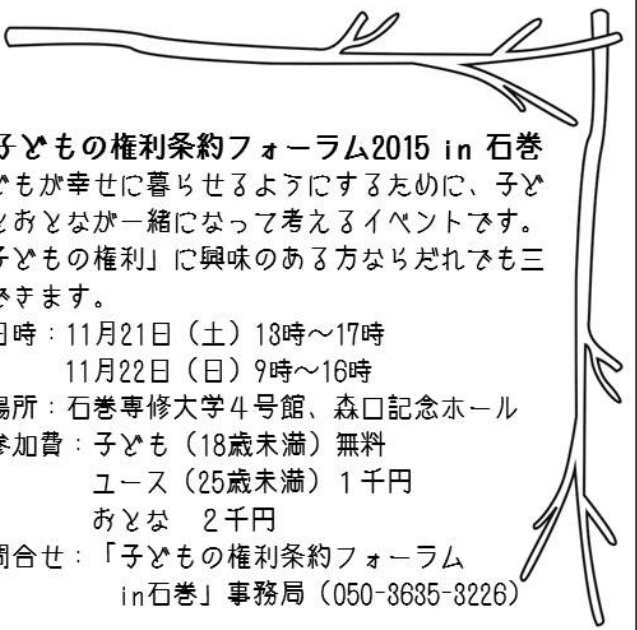
日時：10月31日(土) 9時～15時
 場所：こもれひの降る丘「遊楽館」
 問合せ：かなんまつり実行委員会事務局 (0225-72-2114)



■子どもの権利条約フォーラム2015 in 石巻

子どもが幸せに暮らせるようにするために、子どもとおとなが一緒になって考えるイベントです。「子どもの権利」に興味のある方ならだれでも三課できます。

日時：11月21日(土) 18時～17時
 11月22日(日) 9時～16時
 場所：石巻専修大学4号館、森口記念ホール
 参加費：子ども(18歳未満) 無料
 ユース(25歳未満) 1千円
 おとな 2千円
 問合せ：「子どもの権利条約フォーラム in石巻」事務局 (050-3635-3226)



石巻を誰もがお出かけできるいい町にしよう！ 移動支援 Rera(レラ)

1年3月から石巻地区の障害者や高齢者の中で支援が必要な方に限り、送迎ボランティアを行っています。対象は、自分でバスに乗ることができず、家族や友人など周りに送迎できる人がいない方、公共交通機関がない不便な場所、経済的にタクシーを利用し続けることが困難な方です。2万人の利用者は延べ約20万人。利用者は延べ約20万人。利用者は延べ約20万人。

移動が困難な住民をスムーズに病院に送迎してあげるボランティアを募集しています。年齢は問いません。利用者には優しい安全運転に自信がある方は、週に1度からでも構わないので、まずはご相談ください。

この活動はタクシーではなく本当に支援を必要としている方のためのボランティアです。公共交通機関を利用できる方、タクシーを利用できる経済力がある方にはご遠慮いただいています。最近、依頼があってもスタッフ不足で対応できずお断りするケースが増えています。1日平均70人が送迎されています。移動支援 Rera

特定非営利活動法人移動支援 Rera による。高齢者、障害者、経済的な理由などで移動が困難な多くの住民が、お手伝いを必要としているのです。Reraの村島弘子代表は、事業を続けるための寄付金も、運転してくれるボランティアの数も不足しています。ボランティアのほとんどが石巻地区の住民で、過去には78歳の方も協力してくださいました。運転なら力を貸せるとい方はぜひ連絡ください」と強く要望していました。利用者の半数は仮設住宅で暮らしている方です。ぜひ、石巻の困っている住民をあなたの運転で助けてあげ

子猫の里親募集

開成団地にお住まいの住民さんが、この夏に産まれた子猫たちの里親を探しています。

◎子猫は全部で6匹います。1匹でも2匹以上でもOKです。

◎去勢手術はしていません。

◎条件は「最後まで責任を持って世話できる方」「可愛がってくださる方」です。



◎引き取りに来てくださる方が希望ですが、地域によってはお届けも可能です。

興味・関心のある方は、左記に直接ご連絡ください。

【問合せ】090-2954-4122 (日野さん)

◎移動支援 Rera 所在地 大街道東四番町2-10 (TEL) 0225-19815 667 (ボランティアの相談) 0225-19815 931 (支援が必要と思われる方の相談) (時間) 7月/金: 8時~17時 (受付16時半) 土・祝: 8時~13時 (受付正午) 日: 休み

編集後記

「仮設きずな新聞」始まって以来、初めてA4サイズになってしまいました。これまでA3両面の紙面を埋めるのに大変と思ったことはほとんどないのですが、さすがに1か月間も離れていると難しいですね…。力不足でごめんなさい。

2011年4月に初めて石巻の地を踏んで以来、1か月以上石巻から離れたことはありませんでした。常総も、人は優しくていいところですが、ふとした時に石巻に帰りたいなあと思います。だって、サンマが食べたい！ カキが食べたい！ 新米が食べたい！ やっぱ食べ物って大事だなあと思うたび、いま自分に課せられた役目の重要性を感じます。常総の方々から栄養のある美味しいものが食べられるように、もう少しがんばります。(ピースポート あき)

■仮設きずな新聞とは… ピースポート災害ボランティアセンター (PBV) が2011年10月より、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙。コンセプトは「仮設住宅での暮らしに役立つ情報を届ける新聞」「ココロが元気になる新聞」。毎月10日、25日発行。毎号約6,000部発行。

■仮設きずな新聞は以下の場所でも手に入ります。あがらいん、いしのまきキッチン、石巻市社会福祉協議会(各支所)、IRORI石巻、おがつ店こ屋街、おしかのれん街、かめ七呉服店、からころステーション、川の上・百俵館、道の駅「上品の郷」、まじやらいん(上釜)、宮城クリニック、復興大学、包括ケアセンター(開成)、ピースポートセンターいしのまき

■「仮設きずな新聞」編集部 所在地
ピースポートセンターいしのまき (10:00-18:00/日祝定休)
〒986-0824 石巻市立町1丁目5-21 (ことぶき町通り商店街内)
TEL:0225-25-5602 FAX:0225-25-5603 Email:kasetsukizuna@pbv.or.jp

■発行元 ピースポート災害ボランティアセンター (PBV)
■協力 開成仮診療所/キャンパス東北/震災こころのケア・ネットワークみやぎ/街づくりまんぼう/復興大学/包括ケアセンター/真如苑救援ボランティア (SeRV)

■助成・協賛 認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム (JPF)

■編集長 岩元 暁子 ■編集委員 伊東 孝浩/菊谷 智大
■配布統括 田上 琢彦 高柳 伸康/西村真由美
■デザイン 矢野 瑛子 西本健太郎/野津裕二郎
妙本 咲季 藤戸 孝俊